

これからのエネルギーについて考えたい

Enel^{og}

特別号

SPECIAL ISSUE

2020.11

電気事業連合会

北海道寿都町
弁慶岬から眺める夕景
提供：寿都町

寿都町・片岡町長、
特別インタビュー
神恵内村・高橋村長

北海道神恵内村
海岸線を走る国道229号沿いの景色



文献調査
実施へ

北海道
すっつ
寿都町

町長インタビュー

最終処分問題を全体で考えるために

一石を投じる

片岡 春雄 氏 Haruo Kataoka

PROFILE

北海道旭川市生まれ。専修大学商学部を卒業した後、民間企業への就職を経て、寿都町役場に奉職。同町教育委員会学校教育係長、農政課長、保健衛生課長を歴任する。2001年11月、寿都町長に初当選(現在5期目)。町立の医療施設開設や全国初の町営風力発電の推進に取り組んだ。



高レベル放射性廃棄物の地層処分候補地の選定に向けた「文献調査」に応募した北海道寿都町。最終処分の議論に「一石を投じる」決断に至った片岡春雄町長に、国のエネルギー政策や町の将来を見据えた思いを聞きました。

昨年4月から北海道経済産業局の職員とともに、国のエネルギー政策や寿都町にとって有効なエネルギー活用について勉強会を行ってきました。もともと財政難で、人口も年々減っている中、今は風力発電やふるさと納税で何とか収入を確保していますが、今後、新型コロナウイルスの影響やこれらの事業縮小により、一気に厳しくなる可能性があります。

こうした状況で、町の将来について総合的に考えたとき、昨年来勉強してきた高レベル放射性廃棄物最終処分の「文献調査」への応募も真剣に議論するべきだと思い、町議会に提案しました。確かに悩ましい話ですが、最終的には私の一存で決めました。議論が長引くと町内に溝ができるだけですし、町民の意向も分かっているつもりです。優しく、面倒見がよい町民の人柄が寿都町の自慢です。その町民の過半数以上はこちらを向いてくれていると思っています。

最終処分問題を国全体で考えるために「一石を投じる」形になればと考えたことも理由の一つです。ずっと先送りしてきたこの問題を、さらに子供や孫世代に持ち越すことは、大人として恥ずかしいことです。私たちは、今の最新技術で、

世界とも情報交換しながら安全に処分する責任があることを考える必要があります。国も困っています。寿都町においても今すぐ答えを出す必要はありませんが、何が不安で、どうすればそれが解消できるのかをしっかりと学んだ上で、最終的な判断をしていけばいいと考えます。

理想は諸外国と同様、全国10~20カ所の候補地から、全国の皆様としっかり議論し、最適な場所を決めていくことです。まずは全国の可能性ある地点を調査することが大事だと思います。そのためには、国が先頭に立って都道府県、市町村と連携し、調査に応募しやすい雰囲気を作っていくことが重要だと思います。原子力発電環境整備機構(NUMO)には調査を受け入れた自治体だけでなく、その周辺地域の皆様にも勉強会、説明会をきめ細かく実施して頂きたいと思っています。

今後の調査について、私は少なくとも概要調査までは行くべきだと思っています。その場所が適しているかどうかは実際にボーリング調査をしてみないと分からないからです。ただ、精密調査となると実際の処分場建設にかなり近づくので、町民の皆様の合意なしに進めるべきではありません。その時に町民の皆様は、感情的な部分ではなく、科学的根拠に基づいてしっかり判断ができる能力を身につけた中で意思表示を頂きたいと思っています。特にこれからの寿都町を背負う若い世代には率先して「まちづくりと原子力」について学んでほしいと思います。

(2020年10月30日インタビュー)



寿都町は北海道南西部の日本海側、寿都湾に面した町で、函館と小樽を結ぶ海岸線のほぼ中央に位置しています。四季を通じて獲れる豊富な水産資源が特長で、町内には歴史ある水産加工会社が多数あり、こだわりの水産加工品を製造しています。特有の強風「だし風」を利用した風力発電施設も見どころの一つ。

弁慶岬

奥州から逃れてきた弁慶が、この岬で同志の到着を待っていたという言い伝えが残る。夕日の絶景スポットとして知られており、季節や時間帯によって様々な表情の風景を見ることができます。遊歩道も整備されており、岬周辺の散策もおすすめ。



ニセコバス寿都営業所から約15分
島牧行き「政治」下車

道の駅 「みなとま〜れ寿都」

寿都漁港に隣接する観光情報の拠点。水産加工品を中心に寿都の特産品を多数取り揃えています。旬な地場産食材を使った飲食メニューも豊富で、こだわりのコーヒーは注文ごとにハンドドリップして提供。ドライブの休憩にもピッタリ。



北海道道9号寿都黒松内線沿い TEL0136-62-2550
開館時間、休館日はホームページでご確認ください。
<https://suttufan.com/roadside/>

生炊きしらす佃煮

こうなご

春に獲れる小女子で作られる「生炊きしらす佃煮」は、寿都を代表する特産品です。新鮮な小女子を醤油と水飴で生のまま炊き上げる伝統の製法によるやわらかな食感が特徴で、ご飯にもお酒のおつまみにも良く合う逸品です。



ほっけの飯寿司

寿都の冬の代表的な味覚。秋に水揚げされるホッケを、米・こうじ・にんじんなどと一緒に漬けこみ、じっくりと熟成させることでコクと旨味が増します。甘味と酸味のバランスが絶妙で、寿都の冬の食卓に欠かせない一品。



寿都町までのアクセス

自動車の場合

札幌から
約150km(約3時間)
小樽から
約100km(約2時間)
函館から
約140km
(約2時間50分)
新千歳空港から(有料区間)
約180km
(約2時間30分)

バスの場合

中央バス - ニセコバス
札幌 ▶▶▶ 岩内 ▶▶▶ 寿都
岩内にてニセコバスに乗り換え

鉄道を利用する場合

JR線 - ニセコバス
札幌
or
函館
▶▶▶ 長万部 ▶▶▶ 寿都
長万部にてニセコバスに乗り換え



文献調査
実施へ

北海道 かもえない 神恵内村

村長インタビュー

全村民への理解目指す

国とNUMOは慎重な意見大切に

高橋 昌幸氏 Masayuki Takahashi

PROFILE

北海道神恵内村生まれ。北海道岩内高等学校を卒業した後、神恵内村役場に奉職。同村産業課長、住民課長を歴任する。2002年2月、神恵内村長に初当選（現在5期目）。北海道漁港漁場協会会長のほか、全国漁港漁場協会副会長、全国市町村水産業振興対策協議会常任理事も務める。



北海道電力泊発電所に隣接し、経済産業省からの高レベル放射性廃棄物の地層処分候補地の選定に向けた「文献調査」実施の申し入れを受諾した北海道神恵内村。「最終決断した責任はすべて自分にある」と、村民の理解活動に奔走する高橋昌幸村長に思いを聞きました。

神恵内村の場合は、地元商工会から文献調査への応募検討を求める請願書が上がり、それを村議会で審議する形となりました。議会は約1カ月の審議を経て請願書を採択し、その後、国から調査実施の申し入れを受けました。私としては、この2つを重く受け止め、調査受け入れを表明するに至りました。

最終処分の問題は古くからの国全体の課題で、調査受け入れは非常に厳しい選択でした。村民全員が賛成とはならないため、色々なご意見を頂きました。文献調査の2年間で一人でも多くの方に、この事業の必要性、安全性、村の将来を含めたエネルギー全般のことについてご理解頂ける活動を、国や原子力発電環境整備機構(NUMO)のご支援とともに進めていければいいと思っています。

神恵内村は、隣の泊村に北海道電力泊発電所があり、原子力政策に50年近く関わってきました。そのため、最終処分問題についても他の自治体と違った理解があるのではないかと思います。ここまで静かな環境で進めてこられたのは、やはり村民の皆様の原子力およびエネルギー政策に対す

る理解度の高さによるものではないでしょうか。

とはいえ、最終的に決断したのは私です。調査を進めていく上で、村民の皆様の問題点や疑問点が生じたら真っ先に説明に行き、一つずつ払拭していくつもりです。また、村長就任以来、「子供は神恵内の、北海道の、日本の宝物」と言い続けてきました。将来を担う子供たちに対する説明の場は必要で、NUMOにもお願いし、そうした機会を数多く設けるよう取り組んでいます。

調査受け入れを表明してからこの間、村の職員も私と一体となってやってくれているという雰囲気や、サポートしてくれているという思いが伝わってきます。この問題があって、私と職員の距離がより縮まったような気がしており、その意味で今回の決断をして良かったと思っています。神恵内はいい人に出会える村です。そんな村民の皆様との距離もそうなってほしいと思っており、これから一層努力するつもりです。

最終処分地は数少ない候補から無理に選ぶのではなく、今後できれば多くの自治体に手を挙げて頂いた中で、国が最適な場所を選定できるようになるのが一番と考えます。そうすることで、国も選定された地域も安心してこの事業を進められるのではないかと思います。

今回、特に風評被害について周辺地域の町村長、農林漁業、観光業の皆様が随分心配されています。国やNUMOにはその点を踏まえながら、慎重な意見を大切に、そうした意見をお持ちの方への理解活動に取り組んで頂けたら有り難いです。

(2020年10月31日インタビュー)

神恵内村

見どころ 紹介



北海道西部、積丹半島の西側に位置する神恵内村は、アイヌ語の「カムナイ(美しき神秘的な沢)」に由来します。村全体に広がる豊かな自然が特長で、特にオンシーズン(5月～9月中旬)は、海岸を走る国道229号線沿いの絶景や自然公園でキャンプなどが楽しめます。特産品の海産物は年間通じて豊富。

神恵内青少年旅行村

日本海を見下ろす広大な敷地内にはロッジやバンガロー、テントスペースなどのキャンプ施設が充実。森林浴に満天の星空など、普段感じる事が出来ない野外生活を満喫できます。雨天でも楽しめるスポーツセンターやバーベキューハウスも完備。

神恵内村大字神恵内村字エダウス TEL 0135-76-5148

開村期間はホームページでご確認ください。

<https://www.vill.kamoenai.hokkaido.jp/hotnews/detail/00000143.html>



海岸線ドライブルート

村内を走る229号線沿いは絶好のドライブルート。積丹ブルーの日本海と断崖が作り出す美しい風景が広がります。北に向かう途中に見えてくる奇岩「窓岩」(写真)や「西の河原」は秘境そのもの。窓岩の冬景色も必見。



勝栄鮭

夏の観光シーズンには行列ができるほどの人気を誇る寿司屋。札幌と東京で修業を積んだ店主が握る旬のネタは、並んで食べるだけの価値がある美味しさです。リーズナブルな値段も魅力。



提供: 神恵内村

神恵内村大字神恵内村636-5 TEL0135-76-5841

営業時間:11:00~ネタが無くなり次第終了(14:00ごろ) 定休日:月曜日

ウニの塩水パック 活ホタテ

「ウニの塩水パック」は神恵内産の新鮮なウニを食塩だけで漬け込んだ一品。ウニ本来の甘みが堪能できます。日本海の荒波にもまれて育った「活ホタテ」は貝柱がキュッと締まり、プリプリとした食感が特徴です。旬は6月から9月。



提供: 神恵内村

神恵内村までのアクセス

札幌から自動車の場合

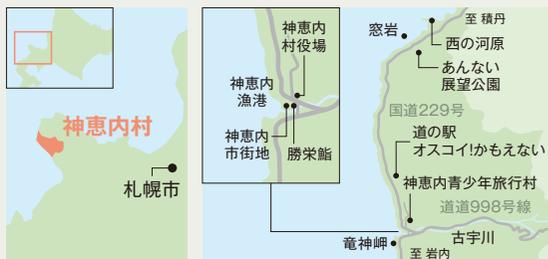
稲穂峠 経由
国道5号線から国道229号線
約2時間30分

当丸峠 経由
国道5号線から国道229号線、
道道998号線
約2時間15分(新千歳空港から札幌間 約50分)

札幌からバスの場合

札幌 - 岩内 間
約2時間45分

岩内 - 神恵内 間
約1時間5分



高レベル放射性廃棄物の最終処分って何？ 処分場の場所はどうやって決める？

徐々に関心を持つ人が増えている高レベル放射性廃棄物の最終処分。今回は報道などでよく聞く「文献調査」をはじめ、処分地決定までのプロセスなどを紹介します。

Enelog vol.44より

- 原子力発電所の使用済燃料は再処理すると、再利用できる燃料(約95%)と廃液(約5%)に分かれます。廃液をガラス固化体に加工したものが高レベル放射性廃棄物です。
- 再処理を行うことで、処分する放射性廃棄物の量を大幅に減らすことができます。また、直接処分するよりも、天然ウラン並みの有害度になるまでの期間を大幅に短縮(約10万年→約8000年)できます。
- 高レベル放射性廃棄物の処分方法は、地下深くの安定的な地層に埋める「地層処分」が最も確実な方法として世界的に共有されています。
- 国内各地の地層処分への適性をおおまかに示した「科学的特性マップ」が政府から公表されています。

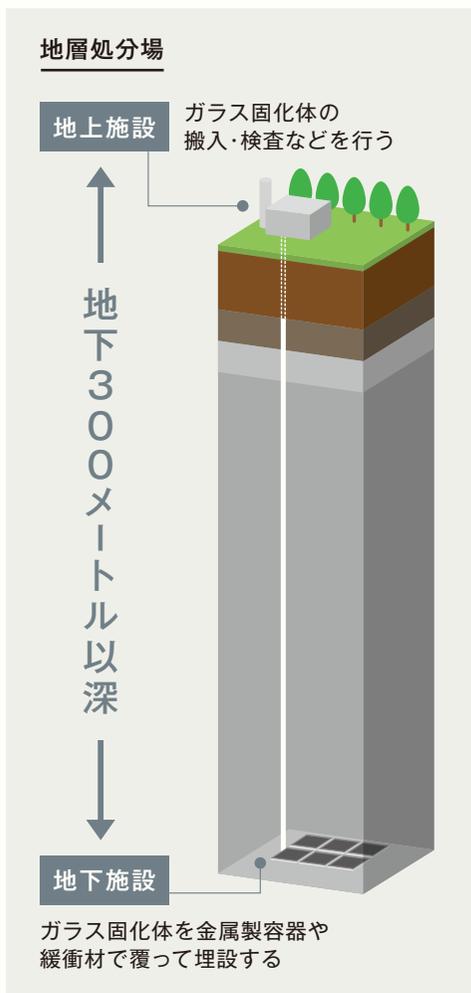
処分場はどこにつくる？

日本では、ガラス固化体を4万本以上埋設できる処分場を国内に1カ所建設する予定です。処分場は地上施設と地下施設からなり、地上施設は約1~2平方kmの広さですむ見込みです。(地下施設は6~10平方kmほどの見込み)

処分場をどこに建設するのは現時点では決まっておらず、国・原子力発電環境整備機構(NUMO)により全国で説明会などを開催し、「そもそも地層処分とは何か」から広く知ってもらう活動に取り組んでいます。そして、「処分場建設を検討してもいい」と考える地域が出てきたなら、そこが建設に適した場所なのかどうかの調査が始まります。

処分地は3段階調査で決める

今年10月、北海道の寿都町と神恵内村は、町村内での説明会や意見聴取などを経て、「文献調査」への応募・受け入れを決定しました。



処分地を決めるプロセスには、主に3つの段階があります。地質図や学術論文などを基に、机上調査で処分場に向かない場所を調べる「文献調査」、ボーリングなどによって地表から地下の性質を調べる「概要調査」、地下に調査施設を建設して詳しく地層の様子を調べる「精密調査」です。また、調査のそれぞれの段階で地元の意見を改めて聞き、反対の場合は先に進まないことが法律で定められています。

処分地が決まったらどうなる？

もし、最終処分場というこれまでにない施設が地元建設されることになれば、不安に思う人もいるかもしれません。一方で、最先端の研究施設をはじめとするビジネス誘致やインフラ整備が期待できるという面もあります。国やNUMOと地域が対話を重ね、できる限りの不安を解消しつつ、地域の発展を目指して事業を進めていくことが大切です。

埋設を待つガラス固化体

日本でこれまでに出た使用済燃料は、ガラス固化体換算で約2万6000本分になります。このうち、既にガラス固化体に加工され国内で保管されているのは約2500本です。できたばかりのガラス固化体は高温で放射能レベルも高いため、埋設できるようになるまで30～50年の冷却期間が必要です。この間に、放射能レベルは約80%下がります。

既に廃棄物は発生しているため、確実に処分しなければなりません。文献調査の開始から最終処分場の操業開始までには30年以上かかると見込まれています。次の世代にできるだけ宿題を残さないよう、皆さんと一緒に考えて考え、処分の道筋をつけていきたいと考えています。

処分地の選定プロセス

科学的特性マップの公表(2017年7月)

全国各地での対話活動

関心グループのニーズに応じた情報提供など

自治体からの応募もしくは
国からの申し入れを自治体が受諾

文献調査(机上調査)

地域の意見を聴く ※反対の場合は先へ進まない

概要調査地区の選定

概要調査(ボーリング調査)

地域の意見を聴く ※反対の場合は先へ進まない

精密調査地区の選定

精密調査(地下施設での調査・試験)

地域の意見を聴く ※反対の場合は先へ進まない

施設建設地の選定

Conちゃんが行く!

エネルギーについて身近な話題から紹介している特設サイト「Concent」内では、編集部員「Conちゃん」がNUMO職員の方に最終処分についてわかりやすく解説していただいているインタビューを掲載しています。こちらも併せてご覧ください。



「原子力発電のごみの最終処分」って何？
専門家に突撃インタビュー(前編)

高レベル放射性廃棄物の処分場って
どこにつくるの？
専門家に突撃インタビュー(後編)



<https://www.concent-f.jp/enrepo/>

今、話題の「文献調査」とは？

地域に判断のための材料を提供

最終処分地選定へ向けた動きが活発化し、耳にすることが増えた「文献調査」という言葉。いったいどのような調査なのでしょう。皆さんの素朴な疑問にお答えします。

Q1 そもそも文献調査って何？

最終処分場を建設する場所を決めるためには、まず候補となる地域の地下が地層処分に適しているか調査しなければなりません。その第一段階が「文献調査」です。

文献調査は文字通り、文献やデータを使って行う調査です。現地でのボーリング調査などを行うわけではありません。そういったより詳しい調査は、第二段階の「概要調査」や第三段階の「精密調査」で行います。

文献調査は地層処分事業に関心を示した地域に対し、事業について深く知ってもらうとともに、より詳しい調査を行うかどうか判断してもらうための材料を集める事前調査のようなもの、といえます。

Q2 具体的にはどんなことを調べるの？

対象の地域について調べられた地質図やデータ、学术论文などを用いて、地域内に明らかに処分場には向かない場所がないか、といったことを調べます。具体的には、主に以下のような点を調査します。

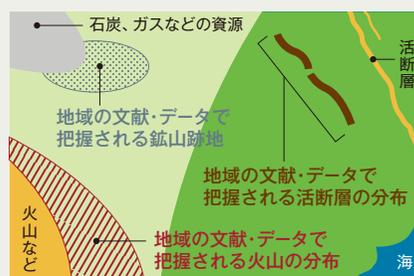
- 地震などで過去に地層が大きく変動していないか、将来大きく変動するおそれが高くないか（火山、活断層、隆起・浸食など）

- 経済的に価値の高い鉱物資源が存在しないか
 - 最終処分を行おうとする地層が、固まっていない礫、砂、泥などの状態でないか
- 国が2017年に公表した「科学的特性マップ」*は、全国規模で整備されたデータを基に各地の地層処分への適性をおおまかに示しました。文献調査では、よりその地域に特化したデータを使うことで、科学的特性マップには載っていない活断層や火山、地下の状況などについて調べます。その結果、処分場に向かない場所が新たに見つければ、次の概要調査を行う場合の候補地から除外します。

* 詳しく知りたい方は、原子力発電環境整備機構(NUMO)ホームページ内の「科学的特性マップ」をご覧ください。



文献調査による評価のイメージ



凡例 (科学的特性マップより)

- 好ましくない特性があると推定される地域 (地下深部の長期安定性等の観点)
- 好ましくない特性があると推定される地域 (将来の掘削可能性の観点)
- 好ましい特性が確認できる可能性が相対的に高い地域
- 輸送面でも好ましい地域

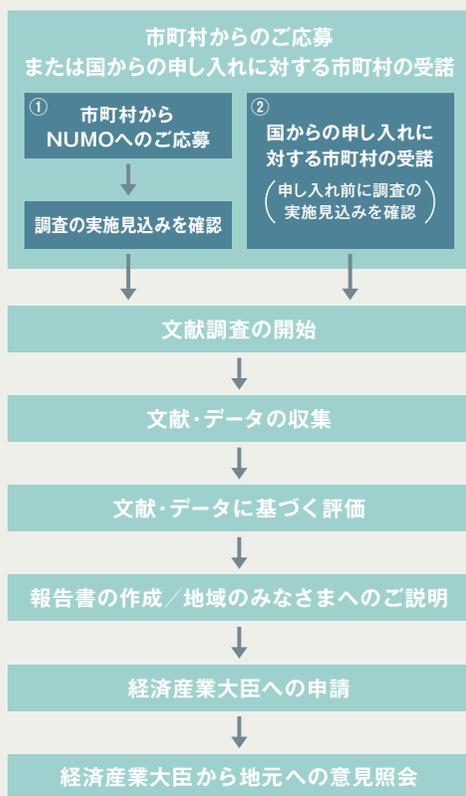
Q3

調査する地域は どんなふうになって、 調査はどのように進むの？

文献調査が始まるパターンは2種類あります。①市町村がNUMOに応募する②国から市町村に調査を申し入れ、市町村が受諾する——の2つです。北海道寿都町は①、神恵内村は②に該当します。①の場合は最初に科学的特性マップなどを用いて、地層処分に適切な地点が見つかる可能性があるかどうか、見込みを確認します。

①②ののち、調査でまず文献やデータを収集し、情報を整理します。その情報を用いて、地層の変動や鉱物資源の有無などについて評価します。評価結果は報告書にまとめます。

文献調査の流れ



また、地域との対話を大事にし、調査期間中は丁寧に計画・進捗の説明や結果の報告、意見の聞き取りなどを行っていきます。

最終的に概要調査の候補地が見つかり、かつ地域の意見として概要調査を行うことを決めた場合、次の段階へと進みます。地域の意に反して進めることはありません。

Q4

地域との対話について、 もっと詳しく教えて。

処分地を決める手続きにおいては、地域の意見を反映することが特に重要視されています。

地域の意見をまとめるには、まず地域の人たちに最終処分地について関心を持っていただき、深めてもらうことが大切です。そのためNUMOでは、文献調査の実施地域に設置された「対話の場」で継続的に対話や情報共有を行っていく方針です。対話の場では文献調査の進捗や結果の説明、地層処分にに関する情報などに加え、将来に向けた地域の発展ビジョンについても検討していきます。ただ最終処分地を選び建設するのではなく、それをきっかけに地域と共生・発展していくことが大切だと考えています。

「対話の場」のイメージ



世界各国で進む地層処分

高レベル放射性廃棄物の最終処分は、原子力を利用する各国に共通の課題です。ほとんどの国が地層処分の採用を決めており、その中でも取り組みが進んでいるフィンランド、スウェーデン、カナダの事例を紹介します。

最も先行するフィンランド

フィンランドは、世界で最も早く最終処分地を決めた国です。2001年に同国南西部のオルキオトに決定、2020年代前半の操業を目指し、最終処分施設「オンカロ」を建設しています。

オルキオトでは原子力発電所が長年運用されており、地元の原子力への理解度が高かったことに加え、政府の処分地選定手続きや原子力規制機関への信頼感が高かったことが処分施設受け入れにつながりました。



オンカロの地下坑道

提供：電気新聞

地域発展見据えるスウェーデン

2009年、ストックホルム北方に位置するエストハンマル市フォルスマルクを処分地に選定しました。2011年に立地・建設許可申請書を提出、2029年頃の操業開始を見込んでいます。

市長によると、同市では処分場の立地によってインフラ整備や中小企業の支援が進み、ハイテク技術や研究者が集まる工業地帯になりうる、といった地域発展に前向きな認識が市民と共有されているとのことです。

ました。前者は堆積岩、後者は結晶岩の地層となっているのが特徴で、今秋までに両地点とも現地調査が始まっています。

2023年までにいずれかを優先サイトとして確定させる予定で、操業開始は2040～2045年を計画しています。

処分地決定近づくカナダ

2019年までに、9地点あった最終処分場候補地をサウス・ブルースとイグナスの2地点(いずれもオンタリオ州)に絞り込み

最終処分は世界一丸で

日本が音頭を取り、2019～2020年に原子力発電を利用する14カ国が参加して「最終処分国際ラウンドテーブル」という会議が開かれました。

同会議では、処分地選定の対話・理解活動について各国の経験・知見を共有していくことや、研究開発において各国の研究施設を相互利用できるようにしていくことなどで一致。今後も、国際的に協力して最終処分の課題解決にあたっていくことを確認しました。

最終処分国際ラウンドテーブル 参加14カ国



2町村の受け入れを進展の起爆剤に 最終処分場は地元の誇りになりえる

社会保障経済研究所 代表

石川 和男 氏 Kazuo Ishikawa



寿都町と神恵内村の意思表明によって、最終処分事業が大きく動き始めました。これから事業をどのように進めていくべきか、進展によって地元地域にはどんな影響が起こりうるかといったことについて、エネルギー関連政策に詳しい石川和男さんに伺いました。

北 海道の寿都町と神恵内村が文献調査の受け入れを表明しました。結果的にほぼ同じタイミングになりましたが、どちらも以前から時間をかけて勉強・検討していたと思います。原子力に関する声が挙げにくい雰囲気が続いていますが、それを乗り越えて前向きな話が出てきたことで、非常に大きな起爆剤になりえます。原子燃料サイクル政策を進める政府としても、両町村の英断を大事にして次につなげていかなければなりません。これまで文献調査を水面下で検討してきた自治体はほかにも全国にあるはずで、今回2町村が手を挙げたことで、これに続く自治体も出てくると思います。

原子力発電から発生する廃棄物は、原則として自国内で処理、処分するのが国際的な約束事です。高レベル放射性廃棄物は地層処分が最も妥当という見解で国際的に一致しています。高レベル放射性廃棄物のガラス固化体は、埋設できるようになるまで30~50年の冷却期間が必要で、日本で処分施設が必要になるのはまだ先ですが、施設の建設までにも時間がかかります。今から準備して早いということはありません。

文献調査は約2年間の予定ですが、現地で実際に調査するわけではありません。この期間は調査そのもの以上に、地元と国・原子力発電環境整備機構(NUMO)とのコミュニケーションを密にし、意思疎通を円滑にしていくことが重要になるでしょう。賛成・反対で住民が分断され、後々まで傷跡が残るようなことがないよう、国が前面に出て対話を重ねていく必要があります。

文献調査が始まれば、現地には海外からの視察が多く訪れるでしょう。概要調査に進めば、測量や工事などで国内からの人の出入りも増えます。さらにその先の段階では、現地が産業や研究の拠点になっていく可能性が高く、また国や電力業界はそうなるように提案を行っていくべきです。

最終処分場は単なるゴミ捨て場ではありません。それは最先端の科学技術の集大成です。安全確実にクリーンな地層処分を可能にするため、どれだけすごい科学技術が活用されているかを将来世代をはじめとした地元の皆さんに知っていただき、誇りを持てるようになってほしいと思います。(2020年11月10日インタビュー)

PROFILE

1989年東京大学工学部卒、通商産業省(現経済産業省)入省。エネルギー政策や産業保安政策などに携わる。2007年退官後、内閣官房企画官、政策研究大学院大学客員教授などを歴任。政策アナリストとして、社会保障関連産業、エネルギーなどについて積極的に政策提言・研究を行っている。現在、経済産業省大臣官房臨時専門アドバイザーを兼任。

電気事業連合会では 電気事業に関する情報を広く発信しています

Concent

コンセント

マンガやグルメといった視点で、エネルギー・電気と私たちの日常生活との接点を読み解くサイトです。



サイトはこちら

ひらめき ピカールくん

いつも使っている電気
みんなはどのくらい
知っているかな？



電気のことを基礎から分かりやすく解説します。



動画はこちら

YouTube動画

『エネルギー アカデミー』

栃木県出身のお笑い芸人を交え、新型コロナウイルスの影響を踏まえた日本のエネルギー問題を面白おかしく解説します。



動画はこちら

電気事業連合会 Twitter

海外の電力関連情報など、電気事業に関する情報などをお届けします。



Twitter
アカウントは
こちら

電気事業連合会では、上記以外にも、ホームページやYouTubeチャンネル、Twitterなどでさまざまな情報を発信しています。ちょっとした電気に関する疑問にお答えするコンテンツも盛りだくさんですので、ぜひご覧ください。

電気事業連合会

〒100-8118 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館
TEL:03-5221-1440(広報部) FAX:03-6361-9024

<https://www.fepec.or.jp/>

ホームページにはこちらのQRコードからアクセスできます



本冊子名称「Enelog(エネログ)」は、Energy(エネルギー)とDialogue(対話)を組み合わせた造語です。社会を支えるエネルギーの今をお伝えするとともに、これからのエネルギーについて皆さまと一緒に考えたいという想いを込めています。

2020.11

